

# 平成31年度以降の接続料算定における 長期増分費用方式の適用の在り方について (追加質問への回答①)

**2018年3月16日**

**KDDI株式会社**

# 追加質問への回答①

**質問 2 - 1** N T T 東日本・西日本のネットワークから音声呼が御社固定網に着信する場合の御社の取得する接続料について、平成 2 8 年度に適用された金額（単金）及びその実績トラヒック。

**質問 2 - 2** 質問 2 - 1 の金額の設定に関する考え方。

**質問 2 - 3** 質問 2 - 1 の金額について現時点で協議が調っていない場合は、その内容。

**質問 2 - 4** N T T 東日本・西日本以外のネットワークから音声呼が御社固定網に着信する場合の御社の取得する接続料について、質問 2 - 1 の各回答と異なる部分がある場合は、その内容。

構成員限り

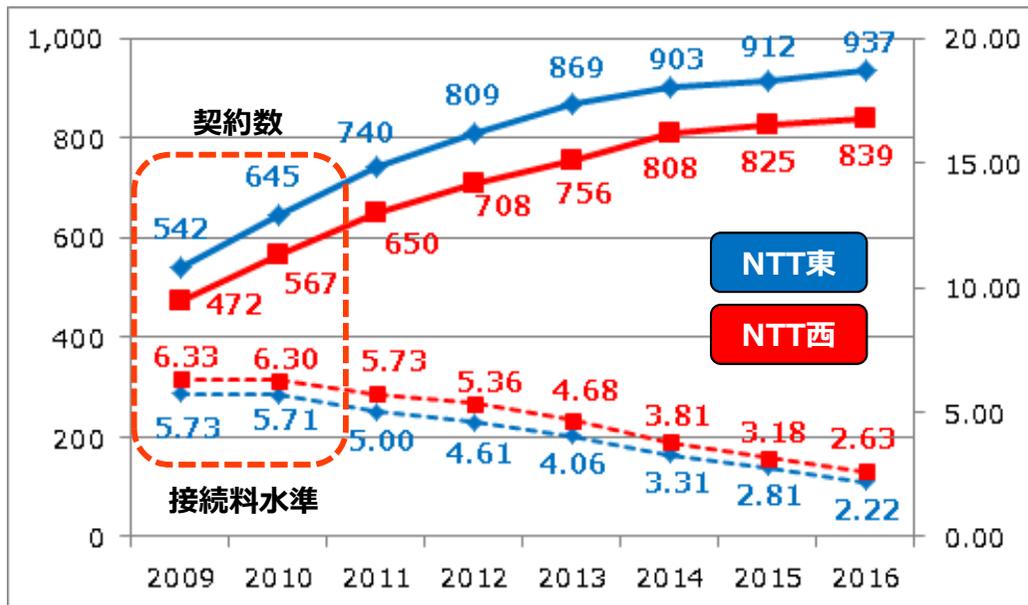
# (補足) 接続料水準について

同規模の加入者を収容する場合に、IP網とPSTN網でどちらが安価にネットワークを構築できるかという比較であれば、IP網の方が安価であるが、NTT東西の接続料水準と比較して他事業者のIP網が安価かどうかという比較は、①規模の経済性と②データサービスとのコスト按分の程度によって大きく異なる。

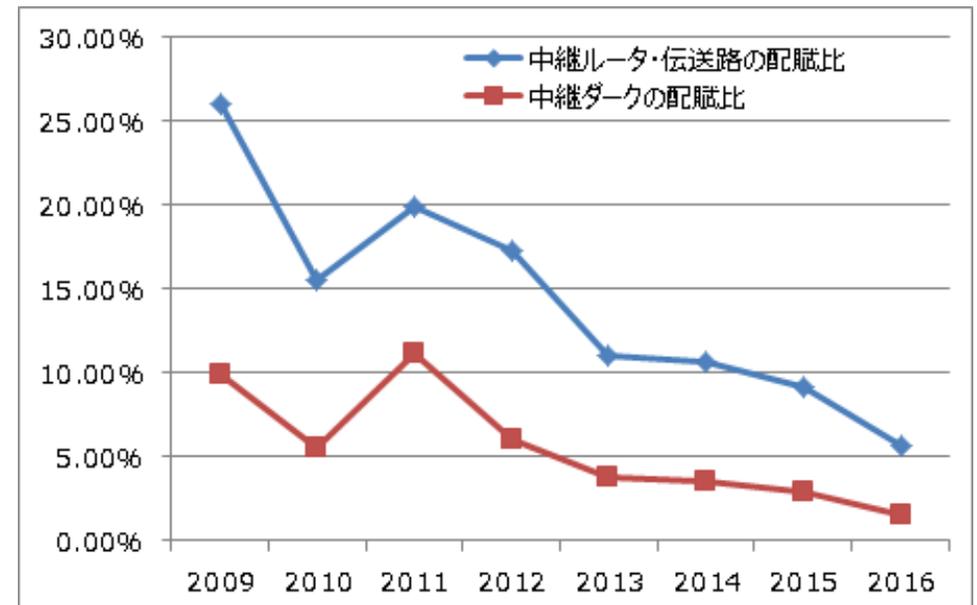
例えば、IP設備については、PSTN設備と比べてより大きな規模の経済性が働くことになるが、最も規模の経済性が働くNTT東西でも、加入者数が500万超規模の際の接続料水準は3分6円程度的水準であり、当時のLRIC水準（3分6.38円）と比べても、IPだからといって、決して極端に低廉な水準という訳ではなかった。

また、データサービスとのコスト按分についても、NTT東西ひかり電話の場合、インターネット接続前提のサービスであることから、インターネットトラフィックの増加に伴って音声へのコスト配賦比率が年々大きく低下しているが、他事業者のOABJ-IP電話サービスは、必ずしもNTT東西ひかり電話同等のサービスだけではないため、サービスの提供形態等により大きく事情が異なる\*。

<ひかり電話の契約数（万ch）と接続料水準（3分あたり）>



<NGNにおけるIGS接続機能へのコスト配賦比（NTT東の場合）>



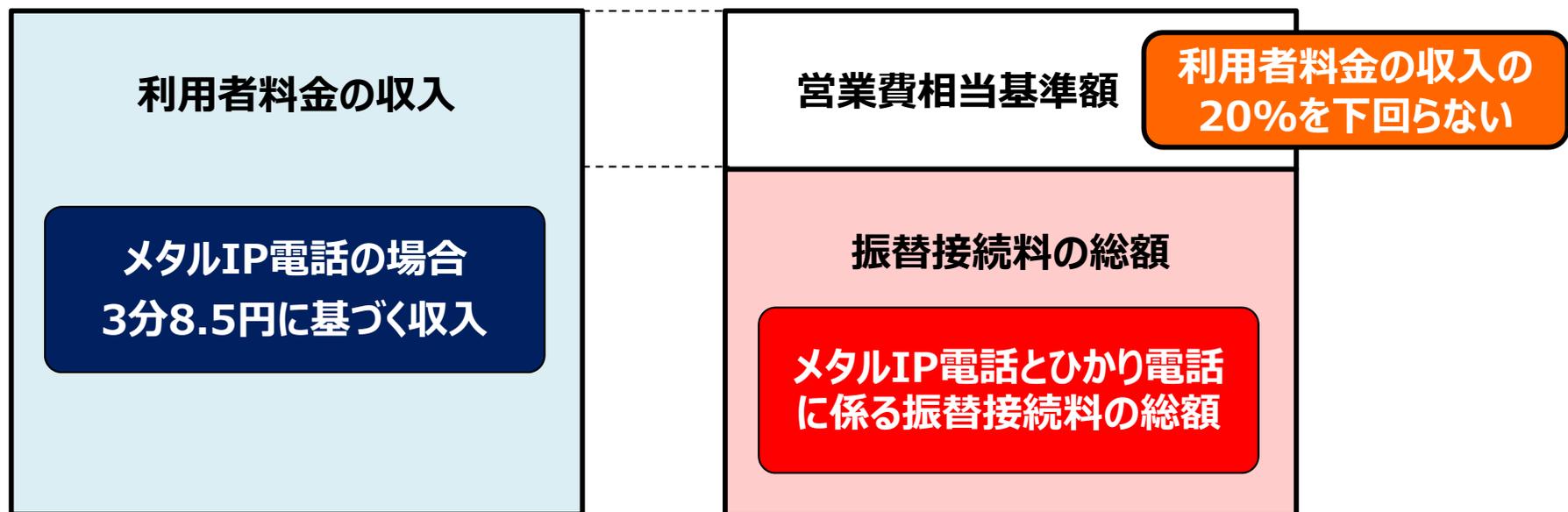
\* 例えば、当社OABJ-IP電話における主要サービスは、CATV事業者の加入者向けに提供している「ケーブルプラス電話」というサービスだが、インターネットや映像サービスはCATV事業者が自社の設備で提供しており、当社は電話サービスしか提供していない。2016.12.25現在で500万契約（J:COM PHONEプラス含む）。

**(参考)**  
**接続政策委員会 (第33回)**  
**資料2に対する考察**

# 接続料と利用者料金との関係の検証

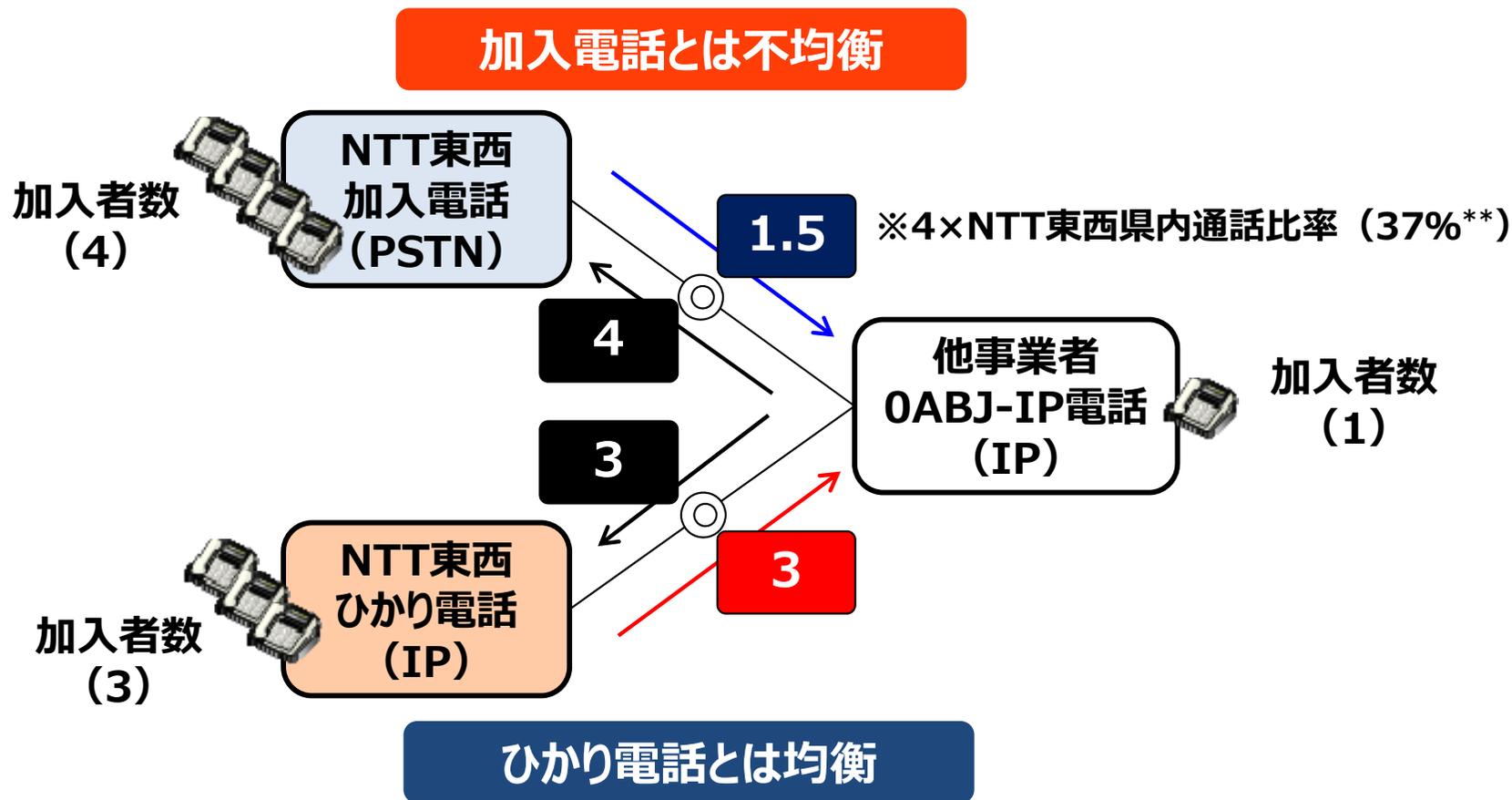
接続料と利用者料金との関係の検証は  
事業者間で接続料が相殺されるか否かではない

「接続料と利用者料金との関係の検証に関する指針」に基づき  
利用者料金の収入と振替接続料の総額での検証が必要



# NTT東西発着トラフィックの不均衡

加入電話（PSTN）は県外通話が他事業者提供となるため  
NTT東西-他事業者間の発着トラフィックは均衡とまらない\*



\* 電話加入者同士が必ず1:1で通話すると仮定した場合。加入電話とひかり電話の加入者数比率は2016年度末における比率。

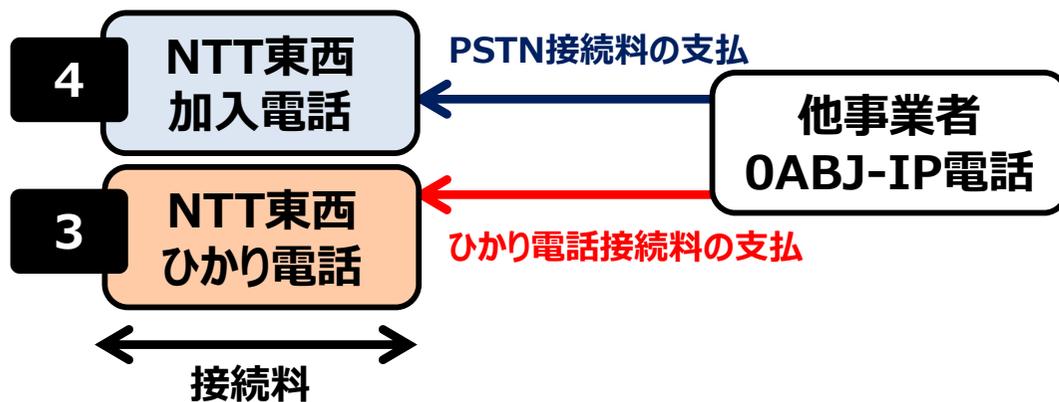
\*\* 通話の県内比率 (59.4% : 「平成28年度 通信量からみた我が国の音声通信利用状況」(総務省)) に、マイライン登録によりNTT東西以外の事業者の通話となる比率 (37% : 「2018年1月末マイライン登録状況」(マイライン事業者協議会) の市内・県内市外の他事業者平均) を考慮した比率 = 37%

# NTT東西接続料ミラー設定の不均衡

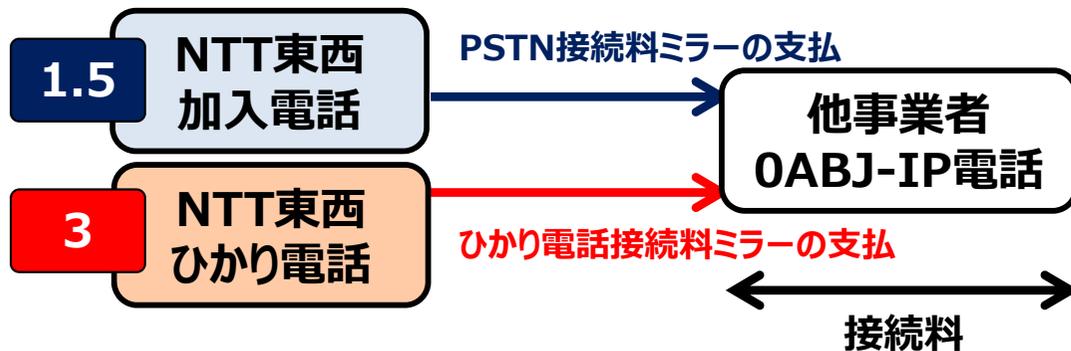
## NTT東西の発信網ミラーで他事業者が接続料を設定

### NTT東西-他事業者間で接続料水準に大きな不均衡が発生

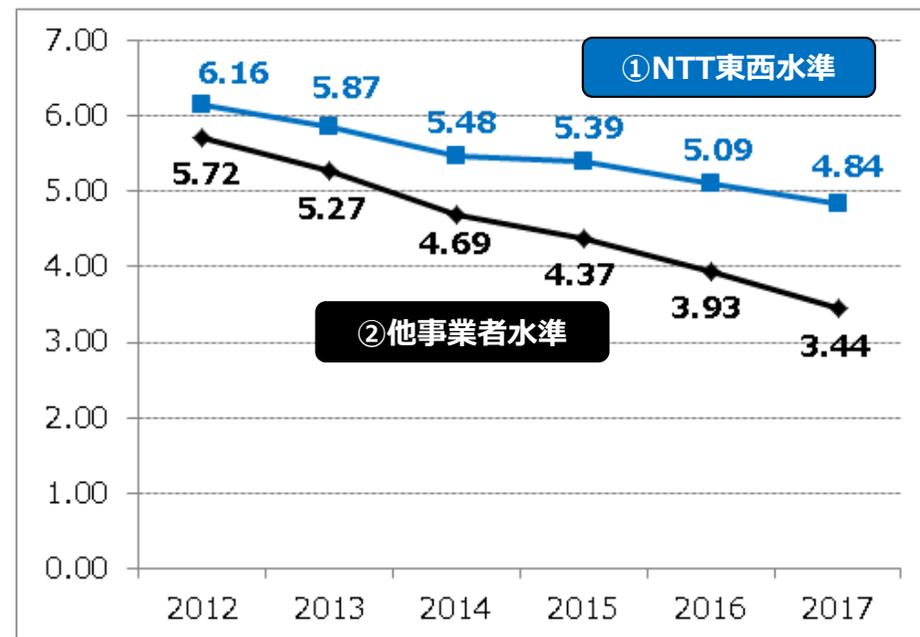
<①他事業者から見たNTT東西接続料水準（4：3の加重平均）>



<②NTT東西から見た他事業者接続料水準（1.5：3の加重平均）>



<3分あたり接続料の加重水準の例\*>

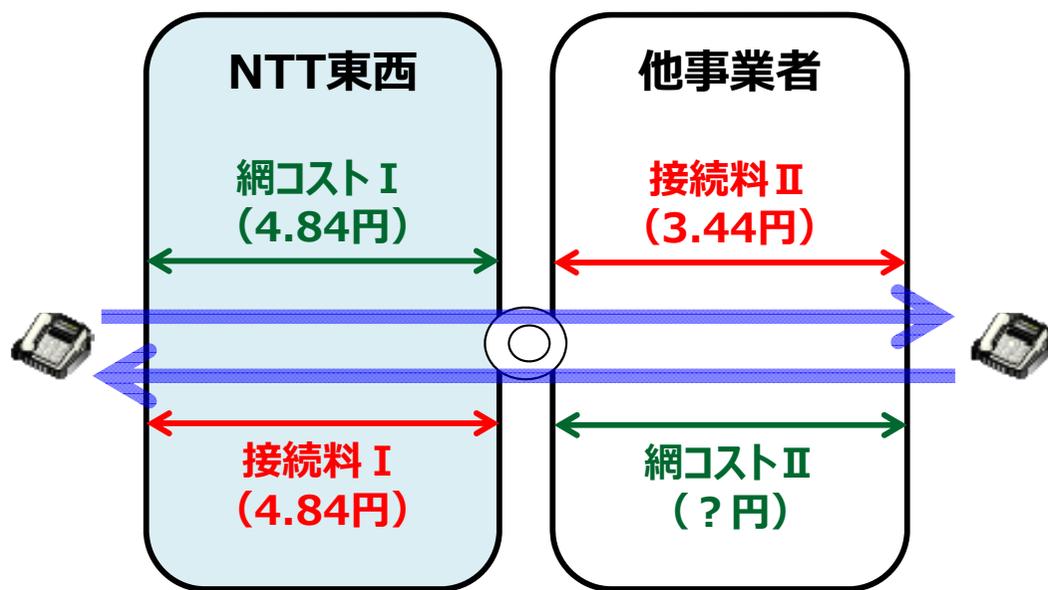


\* 各年度毎の加入電話 + ISDN、ひかり電話の契約数（NTT東西サービス概況より。2017年度末は当社予測値）及び接続料水準を基に加重値を算出。NTT東西県内通話比率は前頁の比率を固定適用し算出。

# NTT東西接続料ミラー設定の不均衡

現環境では、接続料はNTT東西-他事業者間で相殺されない  
また、PSTN接続料が上昇すると不均衡は更に拡大

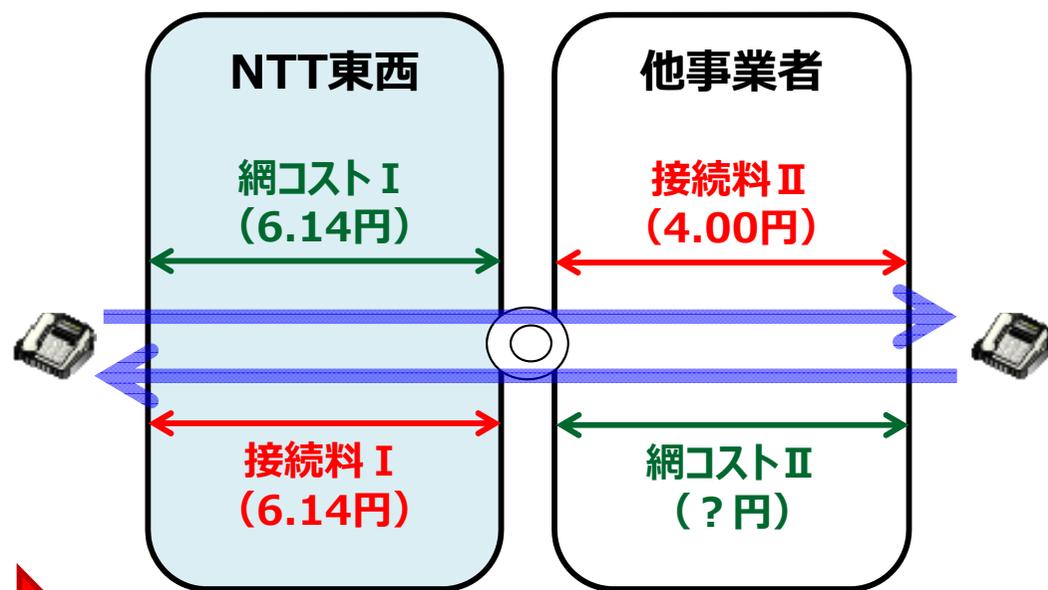
<2017年度における接続料水準の状況>



NTT東西と他事業者の接続料水準差

▲1.40円

<PSTN接続料が上昇した場合\*>



NTT東西と他事業者の接続料水準差

▲2.14円

拡大

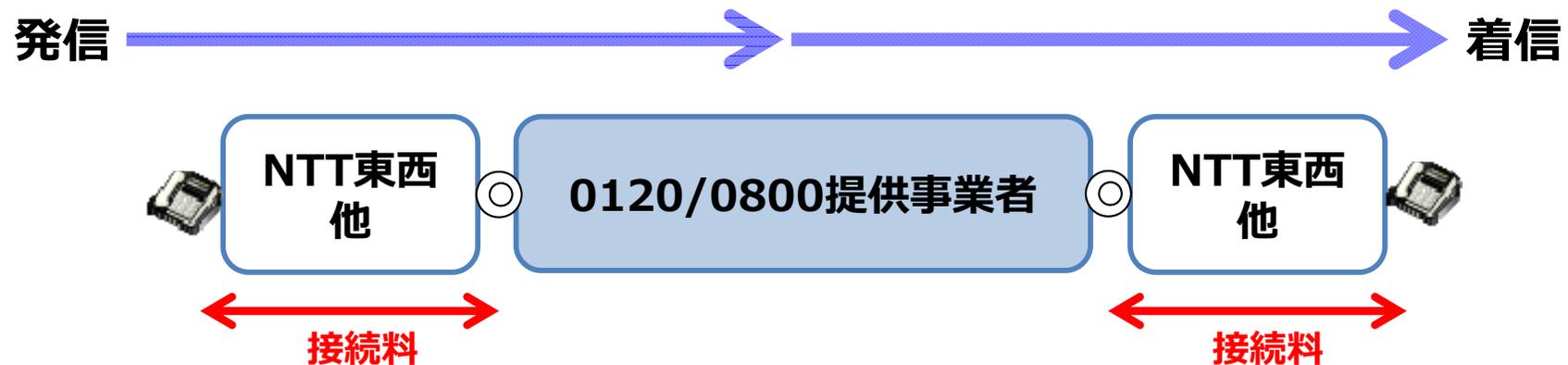
\* 加入電話とひかり電話の加入者数比率が4:3、ひかり電話接続料が3分1円、PSTN接続料が3分10円になった場合で試算

# 0120/0800サービスへの接続料影響

0120/0800サービスの場合

発側・着側それぞれに対して接続料を支払

PSTN接続料の上昇は、サービス収支の悪化に直結



将来、メタルIP電話の接続料次第では  
メタルIP電話では0120/0800サービスの提供が困難に